

主要国・国際機関等のニュース記事一覧

★	16	2024/12/19	IVI	ラッサ熱ワクチン、ロンドン大学衛生熱帯医学大学院のガンビア医学研究所(MRCG)、西アフリカ、ARC-WA、臨床試験、CEPI100日ミッション、アフリカCDC、WAHO	Advancing research capacity and pandemic preparedness in West Africa	IVIとロンドン大学が主導するAdvancing Research Capacity in West Africa (ARC-WA)プロジェクトにおいてラッサ熱を中心とした感染症対策の研究開発を推進	国際ワクチン研究所(IVI)とロンドン大学衛生熱帯医学大学院のガンビア医学研究所(MRCG)は、西アフリカでAdvancing Research Capacity in West Africa (ARC-WA)プロジェクトを進めている。このプロジェクトは以下の2点を目的としている。 ①ラッサ熱が流行する西アフリカ諸国でのラッサ熱ワクチンの第IIb相、第III相臨床試験の施設整備、②緊急事態においてワクチンやその他の生物学的対策に関する臨床エビデンスを迅速に生成するための地域戦略の開発と推進 このプロジェクトはCEPIの100日ミッション達成に貢献するものであり、CEPIの支援を受けている。プロジェクトには、アフリカCDC、西アフリカ保健機構(West African Health Organisation: WAHO)、西アフリカ諸国政府および各国の研究機関が協力しており、現地の病院の視察、ワークショップなどが行われている。	その他		●	●		●								リンク
★	17	2024/12/23	WHO	COVID-19、SARS-CoV-2変異株、TAG-CO-VAC	Statement on the antigen composition of COVID-19 vaccines	WHOのワクチン構成の技術的諮問グループ(TAG-CO-VAC)が1価のJN.1系統変異株を引き続きCOVID-19ワクチン抗原に用いることを推奨	2024年12月10-12日にWHOのワクチン構成の技術的諮問グループ(Technical Advisory Group on COVID-19 Vaccine Composition: TAG-CO-VAC)が再招集された。会議では、SARS-CoV-2の遺伝的変異や抗原変化、感染またはワクチンによる免疫反応、現在承認されているワクチンが流行しているSARS-CoV-2変異株に対して示す性能、およびCOVID-19ワクチン抗原組成への影響などが検討された。その結果、2024年4月に開催されたTAG-CO-VACにおける声明を踏襲し、今後のCOVID-19ワクチンの抗原構成に1価のJN.1系統変異株を含めることが結論づけられた。WHO加盟国は、WHOの予防接種に関する戦略諮問グループ(SAGE)の推薦にもとづきCOVID-19のワクチン接種を継続することが推奨される。	コロナウイルス感染症		●	●									リンク	
	18	2024/12/24	BARDA	COVID-19、ワクチン、T細胞免疫応答、Project NextGen	BARDA Announces Award to Fred Hutch Cancer Center Through Rapid Response Partnership Vehicle to Evaluate T-Cell Immune Responses of Next Generation COVID-19 Vaccines	BARDAが次世代COVID-19ワクチンの開発に向けて、フレッドハッチ癌研究センターによるT細胞免疫応答の評価技術開発に2,380万ドルを助成	BARDAは、Rapid Response Partnership Vehicle (RRPV)を通じて、Project NextGenの資金2380万ドルをフレッドハッチ癌研究センターに助成し、T細胞免疫アッセイの集中研究所として機能をさせることを発表した。これにより、T細胞の機能に関する新たなバイオマーカーの検査能力が向上し、次世代のCOVID-19ワクチンの先進的な研究開発が促進される。本契約のもと、フレッドハッチ癌研究センターはCOVID-19ワクチンにより誘導されるT細胞の応答を評価するために、ヒト臨床試験サンプルを用いてマルチパラメーターの細胞内染色アッセイ法の検証を行う。	コロナウイルス感染症		●	●	●								リンク	
	19	2024/12/31	NIH, NIAID	高病原性鳥インフルエンザ、H5N1、リスク評価	NIH Officials Assess Threat of H5N1	NIAIDの所長らが高病原性鳥インフルエンザウイルスH5N1のリスクに関する見解を公表し、H5N1の一般市民へのリスクは低く、既存および開発中の治療薬やワクチンは重症化を防ぐのに十分であると評価	NIH傘下のNIAIDのMarrazzo所長とIson医師は、 <i>New England Journal of Medicine</i> に掲載された論説の中で高病原性鳥インフルエンザウイルスH5N1に関して、警戒を強めることと「通常業務」とのバランスを取るべきだと述べた。そして、現在の流行を抑制するために、1)獣医学、公衆衛生、医療、酪農や家禽の飼育従事者など、人間と動物の研究者間の協力体制、2)呼吸不全を発症し救命医療介入されたカナダのH5N1患者を注視すること、3)H5N1やその他のインフルエンザウイルスに対するワクチンや、治療法などの医療対策の開発と検証を継続すること、4)人々による感染防止対策を4つのポイントとして指摘している。	インフルエンザ		●										リンク	リンク
	20	2025/1/3	NIH, NIAID	マラリア、スプロロゾイト、PfCSP、モノクローナル抗体、エピトープ、pGlu-CSP、MAD21-101	NIH researchers discover novel class of anti-malaria antibodies	NIHの研究者がマラリア原虫の従来とは異なるエピトープをターゲットとする新規の抗体を発見し、 <i>Science</i> 誌に発表した。熱帯熱マラリア原虫の表面には、環状スプロロゾイト抗原(PfCSP)と呼ばれるタンパク質が存在する。現在までにヒトで試験された抗マラリア抗体のうち、最も有望なものは、このPfCSPに結合する。今回、NIAIDの研究者を中心とする研究チームは、スプロロゾイト表面の新しい部位(pGlu-CSPと呼ばれるエピトープ)をターゲットとするモノクローナル抗体(MAD21-101)を発見した。マウスを用いた実験で、この抗体はマラリア原虫のスプロロゾイトを効果的に中和し、マウスのマラリア感染を防御することができた。研究グループは、マラリア予防の今後の戦略に役立つとともに、この病気に対する新たな抗体やワクチン開発を促進する可能性がある、と研究者らは指摘している。	マラリア				●			●						リンク	リンク